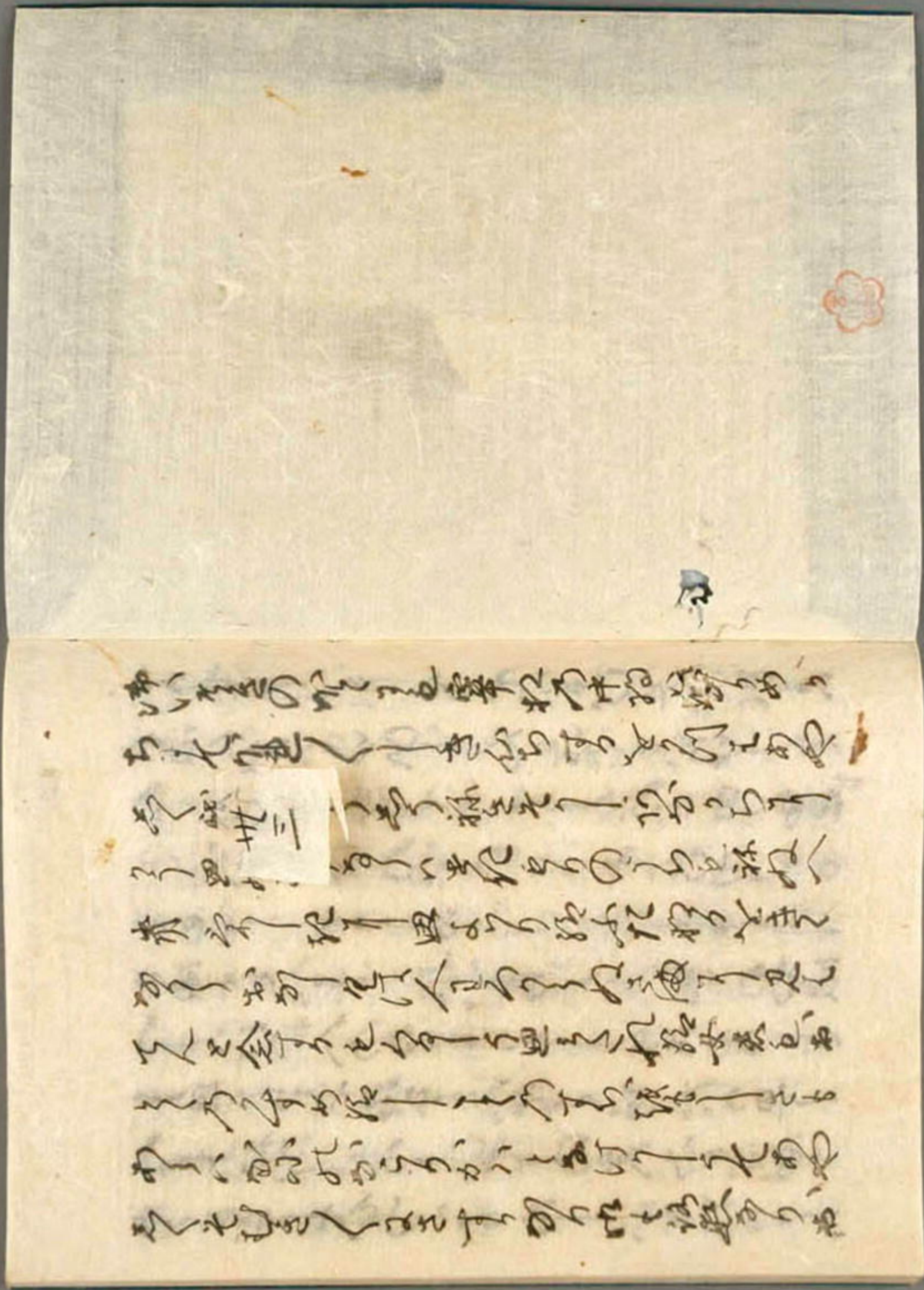
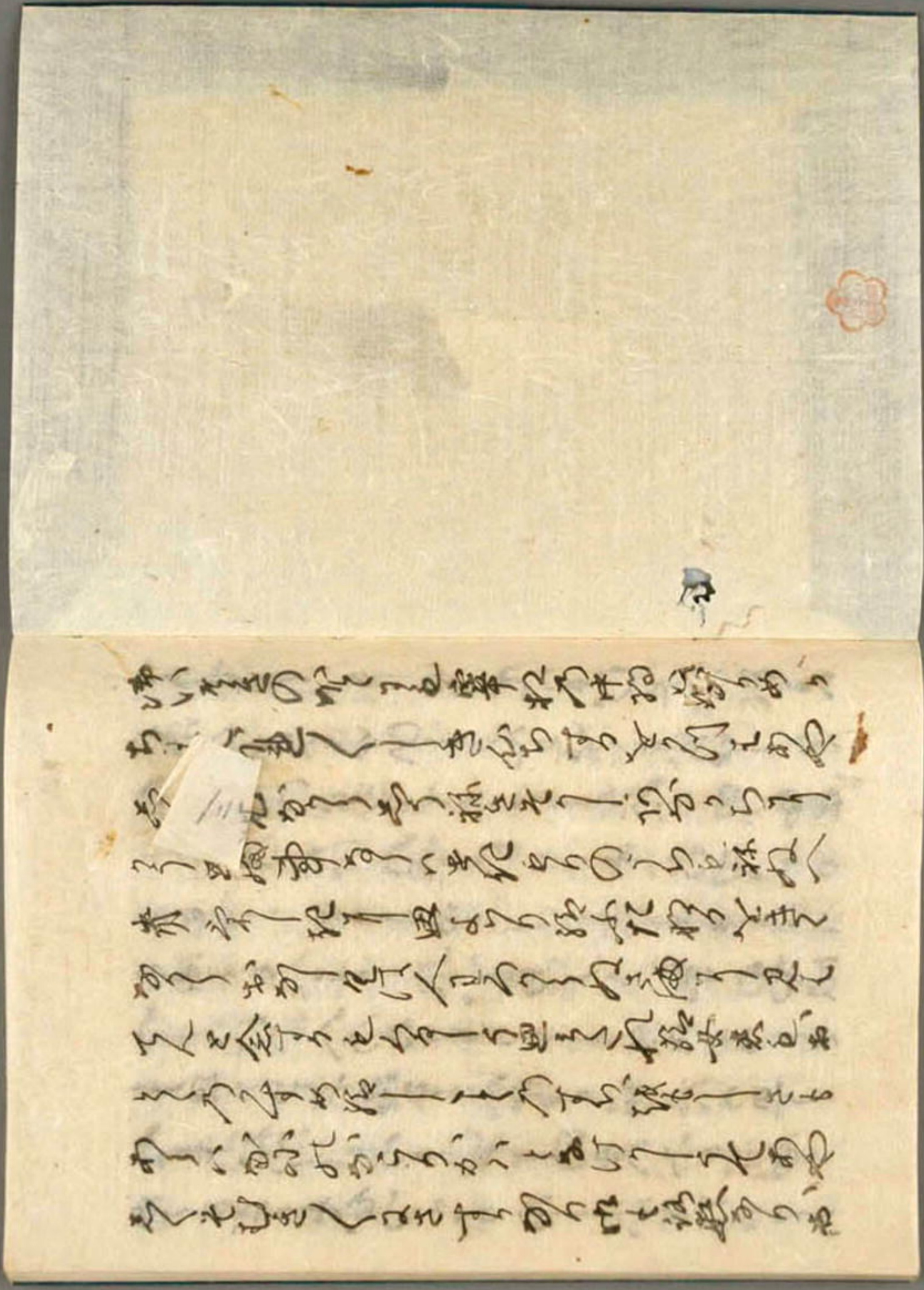
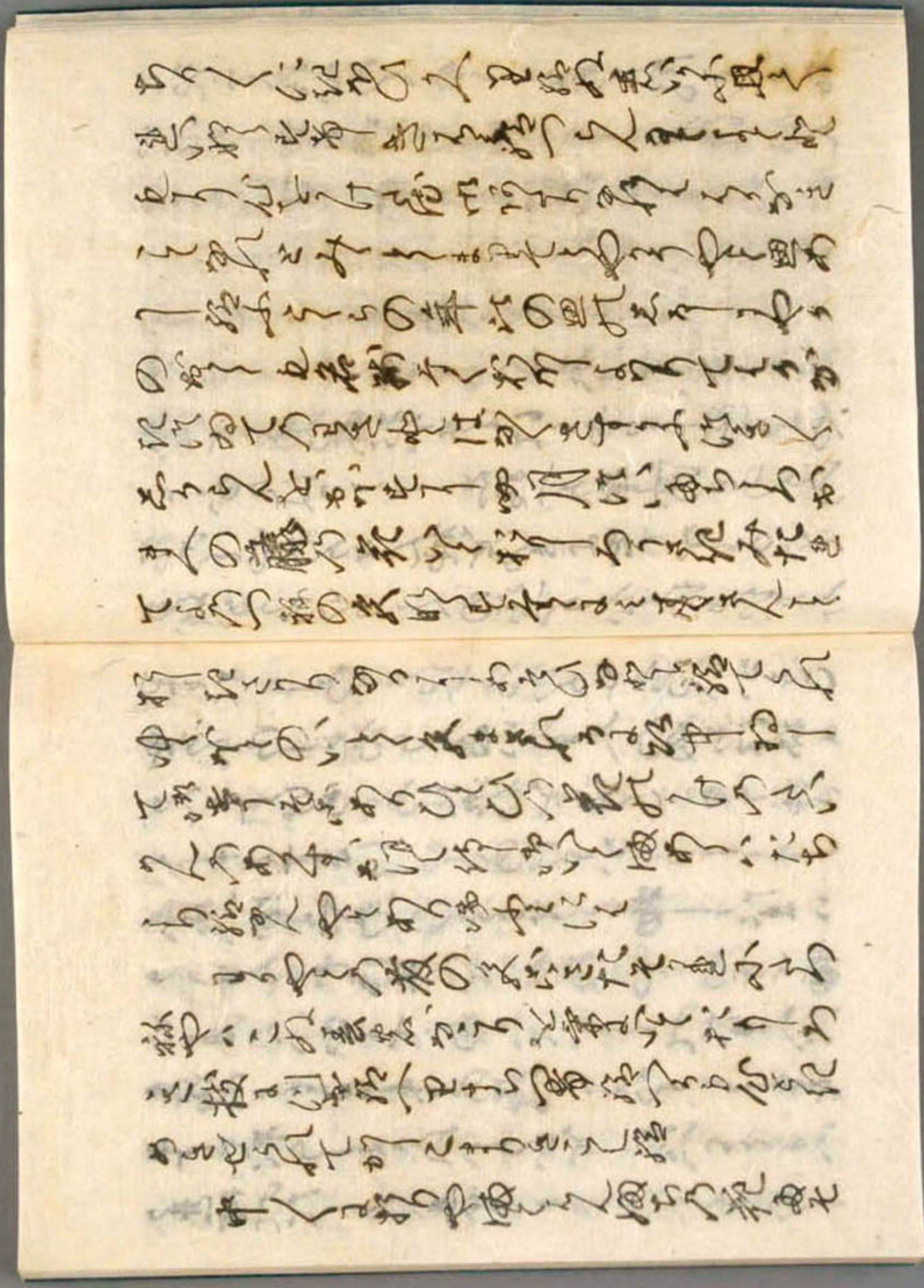
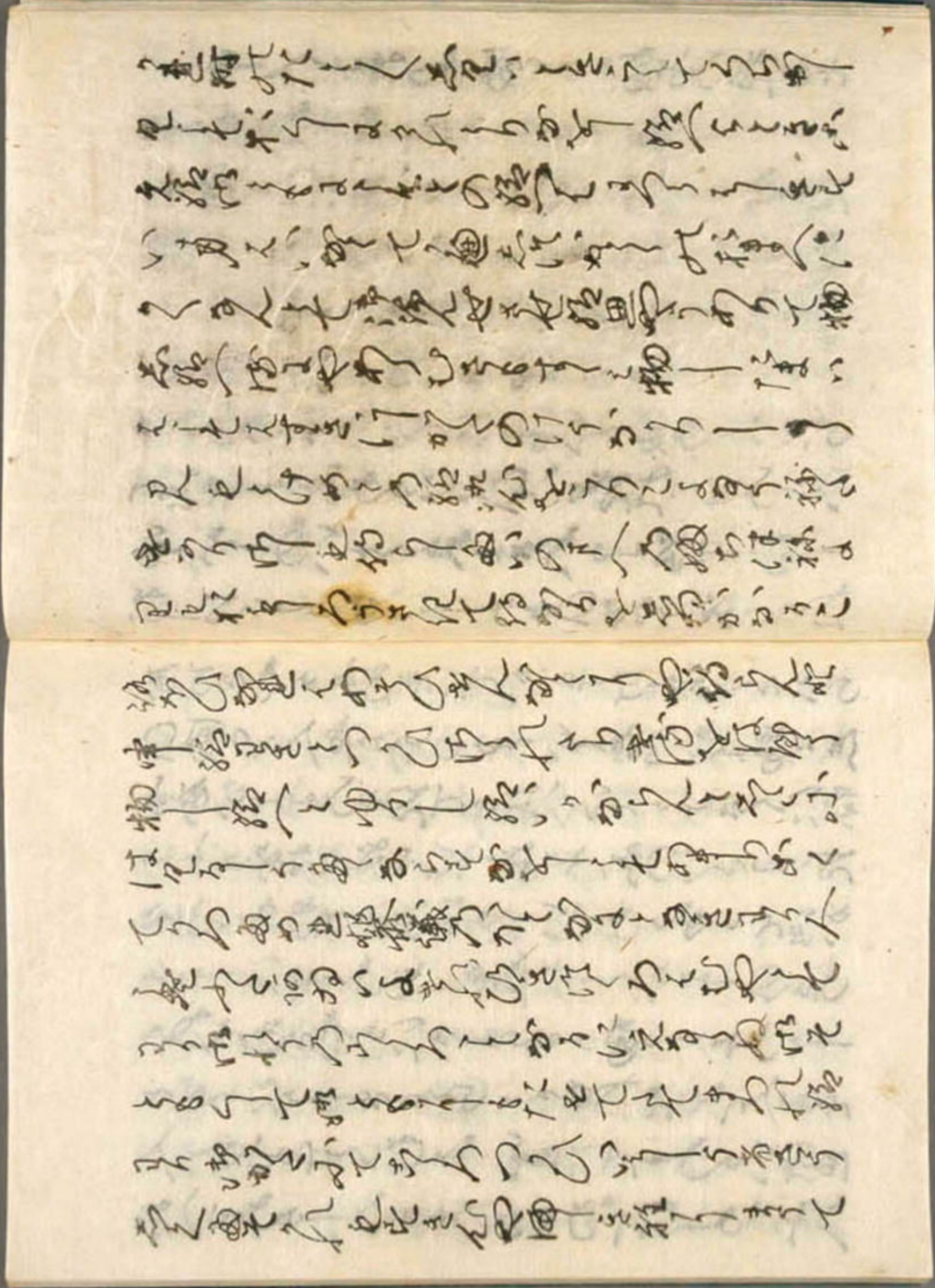
WA 7
(43)
263





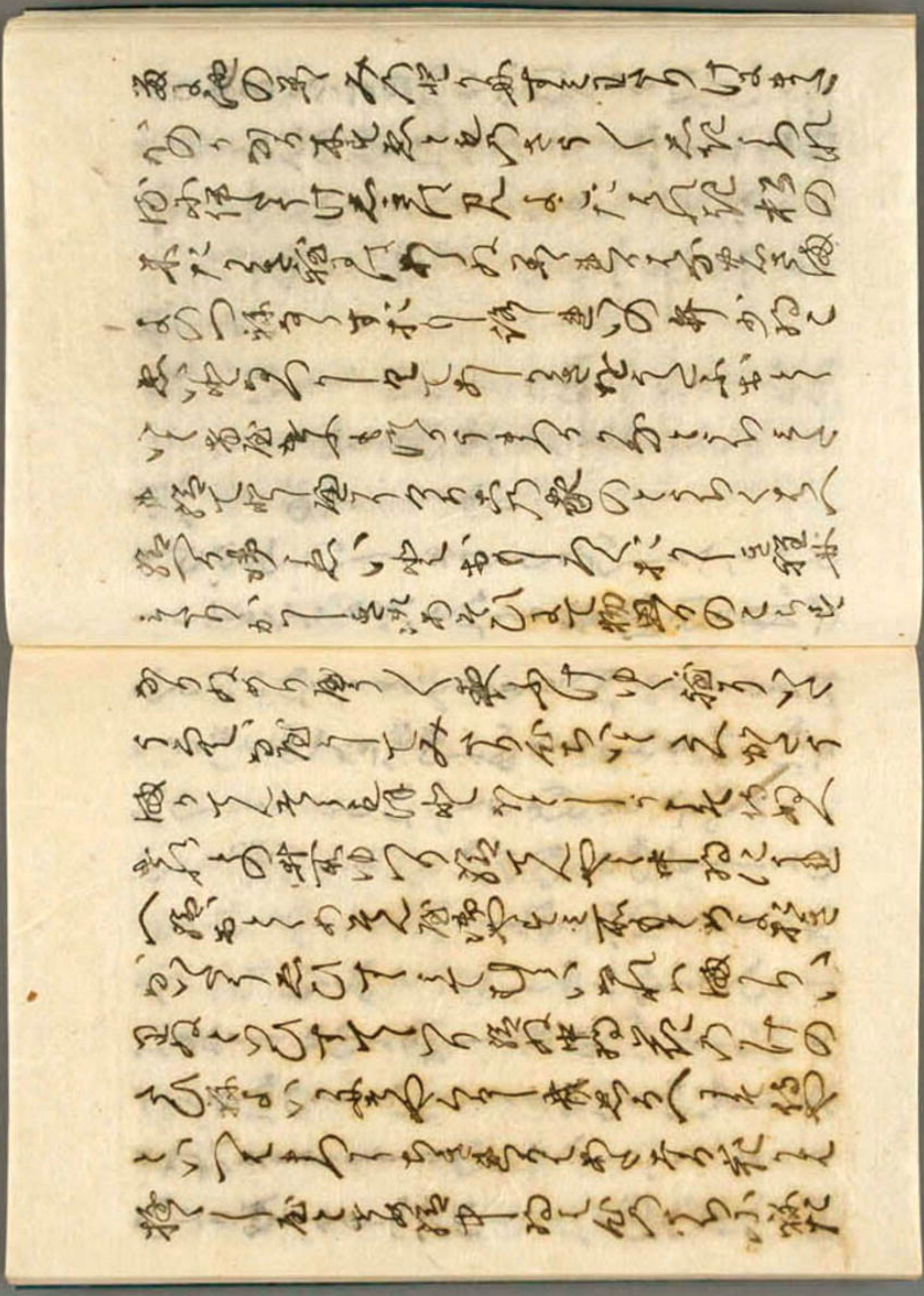




出かけみゆるふハ身をもすつるさ海まで
此まて行〳〵旅へ心のやすさいたれ消へしか
次もしらかゝるへらんもとをりとろくろなかの
ことたらなれとわこちらきぬて旅れいせ
きよくはしと見て夜の〳〵森のことちらて
旅て行ゆ〳〵しれと照りて頃中ねる花の
色て〳〵もり雨さかくさとかりて雨らう
此御行つ夜ふくるよりてもてやむ
にれせ

むらさ花よりもとよりかんふちの花もり

よりすきてら見て大名あるも宰相行の月を
ゆかしあすけしさちうりくとそとまり
旅へちさ雨りてとりあり

ゆく越足路深夜嘉をすくりこそ
花の気もくかりあ雨らん頃中ねふ
旅へも

たゝやめの袖ふまう越前ふちのえかこう
人のやりとまさらんにさくもむかう
めきをえひの雨これみちうくなりてこれ
より雨さらて七日の中ふ行くよりけかりか